

経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 恵庭市

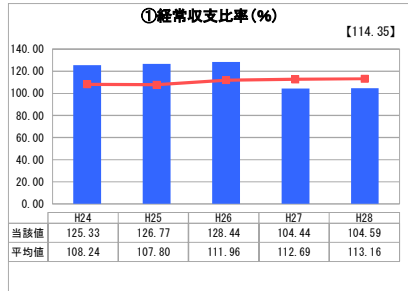
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	74.45	99.26	4,045	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
69,227	294.65	234.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
68,685	84.05	817.19

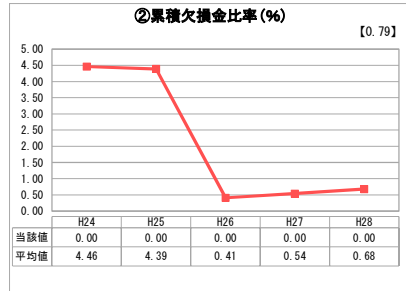
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

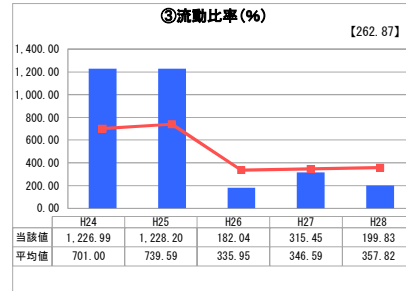
1. 経営の健全性・効率性



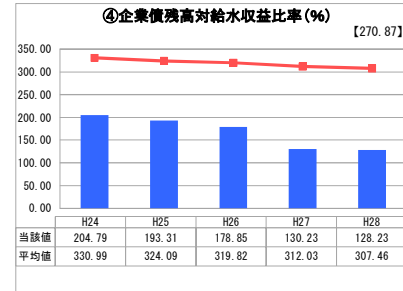
「経常損益」



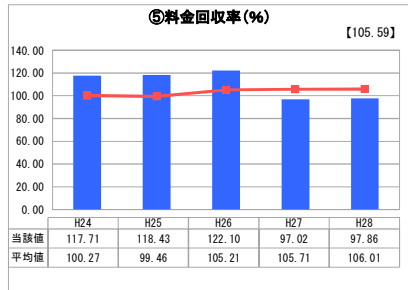
「累積欠損」



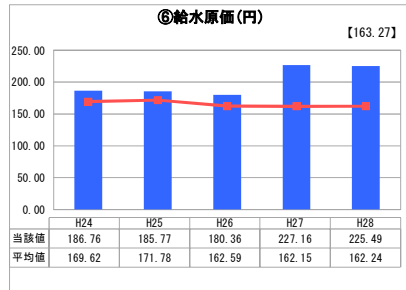
「支払能力」



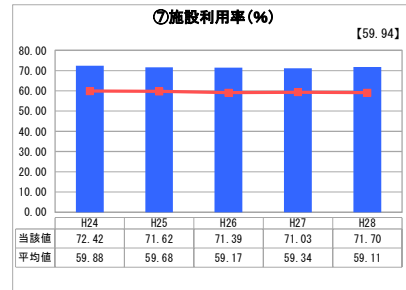
「債務残高」



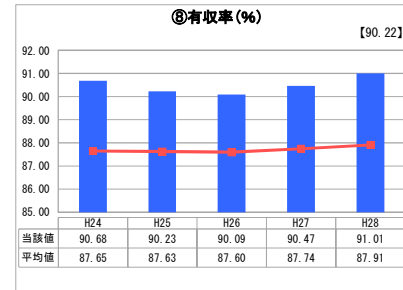
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

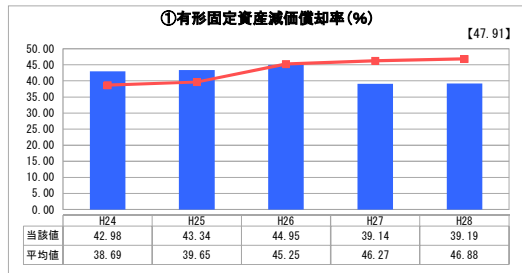


「施設の効率性」

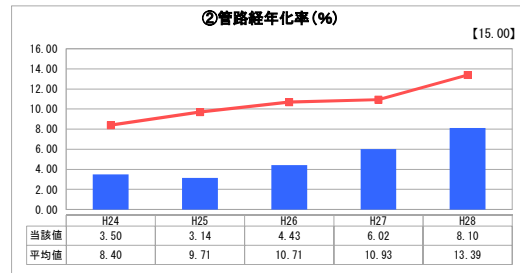


「供給した配水量の効率性」

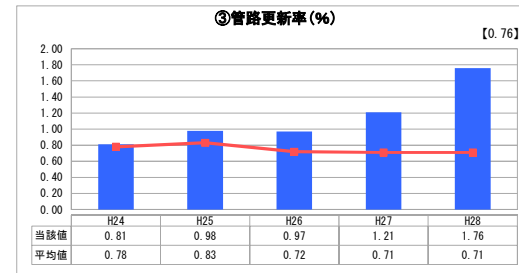
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

(1) 健全性について
 ① 経常収支比率は100%を超えて推移しており、累積欠損金比率についても0%を維持していることから、健全な運営がされていると考えます。
 ② 当期は流動比率が下がっていますが、これは28年度に行った「恵庭市第2庁舎」の建設に伴い現金が減少したこと、一時的に未払金が増加したことによるものです。
 ③ また、企業債残高対給水収益比率については年々減少傾向にあります。企業債の借入額を償還額以下に抑えるなどの工夫を行っており、今後も企業債残高の圧縮に努めます。

(2) 効率性について
 ① 当市直営の浄水場を廃止し、平成27年度より「石狩東部広域水道事業団」からの全量受水に切り替えています。そのことによる影響が今年度も数値に表れていますが、浄水場廃止処理が平成28年度に完了したこと、平成30年4月より受水費の単価見直しがあること、さらには委託事業の見直しに努めていることなどから、今後は改善が見込まれます。現状では、水源の2系統化によって受水費が増え、給水原価が上昇したことでも料金回収率が100%を切っており、給水に係る費用が料金収入のみでは賸りきれていません。
 ② 今後も節水機器の普及や人口減少により料金収入が減少し、さらに収支比率が悪化していくことが考えられます。そのため、平成27年4月に策定した「恵庭市水道事業経営戦略」を随時フォローすることにより、今後の投資・財政状況や経営についての見直しを明らかにし、厳しい経営状況に対応できるよう努めてまいります。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率については、現段階では類似団体平均を下回って推移しています。
 しかし当市は昭和50年代以降急速に市街地が発展したため、指標値にも表れているように次々と管路が更新時期を迎え、今後も経年化率は上昇していくと考えられます。
 そのため、平成27年度に策定した水道事業管路計画を基本として、耐震性の低い既設管路を更新し、事業の平準化を図りながら計画的に整備を実施していきます。

全体総括

平成26年度までは概ね安定的で良好な経営が行われておりましたが、平成27年度に水道事業を取り巻く環境が大きく変わったことで経営状況についても大きく変化し、今年度もその影響が指標値に表れています。
 「水道事業経営戦略」については随時フォローアップを行っており、策定当初の計画に比べ、平成29年度以降は収支状況の改善が見込まれるものの、依然として非常に厳しい経営状況となることが予想されております。
 引き続き収支状況を改善するため、より効率的な企業運営を図っていきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。